

会 議 録

会 議 名	令和 5 年度 第 1 回山形市少年自然の家運営協議会
開催日時	令和 5 年 7 月 5 日 (水) 10:00～12:00
開催場所	山形市少年自然の家 研修室
主 催	山形市少年自然の家
出席者	出席委員 山口 雅和、長沼 政直、辻原 吉子、前田 浩一、黒沼 末八、 奥山 健悦、横倉 明、黒木 佳昭 欠席委員 奥山 竜士、大嶋 民代
事務局	金沢 智也 教育長、高橋 一実 教育部長 少年自然の家 小関 仁美 所長 金山 治行 副所長 伊藤 義文 副所長 森山 真澄 指導主事 横山 誠 主幹
議 題	令和 4 年度事業報告・施設利用報告 令和 5 年度事業計画・施設利用予定 等
資 料	令和 5 年度 第 1 回山形市少年自然の家運営協議会 資料
作成者	主幹 横山 誠

会議経過

- 1 委嘱状交付
 - 2 開会
 - 3 教育長あいさつ
 - 4 委員及び事務局職員紹介
 - 5 少年自然の家組織について
 - 6 少年自然の家の概要及び運営協議会について
 - 7 運営協議会会長及び副会長選出
委員より事務局一任の声があり、事務局より提案。
会長 黒木義明委員、副会長 横倉明委員を推薦し承認をいただいた。
 - 8 運営協議会長あいさつ
 - 9 協議
少年自然の家条例施行規則により、黒木佳昭会長を議長に選任
- (1) 令和 4 年度事業報告について
 - (2) 令和 4 年度施設利用報告について
事務局より、資料を用いて報告。
議長 活動を行う工夫がたくさん見られ、コロナ禍を払拭していこうとする意気込みを感じた。
委員 親としたら子どもにやってもらいたい事業ばかりと思う。今の親世代は自分の経験がなく子供に教えることができない方も増えてきているが、自然の家に来ると体験ができることがとても良い。自然の家での体験が大人になって生きてくると思う。双葉地区でも引き続き親子そば打ち体験の際は協力していきたい。

議長 親子でキャンプ体験を実施した経緯を知りたい。

委員 キャンプブームがあったこと、コロナ禍でテントでの宿泊ができない状況が続く せっかくあるキャンプ場がもったいないことなどもあり、親子でなら宿泊できるのではとの考えからこの事業の形となった。道具は少年自然の家で全部準備され、食材さえ持参すればキャンプができるということで、大変有難い経験だったとの意見もいただいたところであった。

委員 参加者には良い面をどんどん発信してもらおうよう伝えたら良いのではないかと。発信していただくことで、それを見た方が問い合わせをしてくれるといったことにつながるのではないかと。

中学校の利用が少ない点について、5月に利用が集中しているのは修学旅行を行うのと同じ日程で1年生が自然の家にくることとなるためである。学校ではコロナ禍が収まり行事等をどの様に復活させるか検討しているが、子供や教員数の減少で以前と同様の規模の活動ができなくなっており、養護教諭が修学旅行で不在の時に自然の家で安全確保のための体制を整えるのが人手不足で困難となっている。将来的にそういった部分のカバーについても検討していただきたい。

議長 少年自然の家の養護教諭の体制について教えてもらいたい。

事務局 会計年度任用職員で配置している。夜間は不在となり宿泊時の夜間対応は難しい。学校の活動は夜間も行うことから検討していく必要はあると考える。

委員 家族でキャンプは申込みが多いのに受入れが絞られる。安全確保の事情もあると思うが、せっかくの申込みなので受入れを増やしてほしい。

自然から学ぶものは大きいと感じる。ぜひ学校には低学年のうちから自然に触れる機会を多くしてもらいたいと感じる。

議長 小学校低学年の受入れ状況はどうなっているのか

事務局 生活科の学習に関連して、季節ごとの自然散策、冬の雪遊びが利用の中心となっている。

議長 看護の件について、かなり以前には主催事業の際に看護協会に応援を求めた実績もある。

委員 ピザづくりで食材ゲットをしたとあったが、どの様なやり方をしているのか。

事務局 各ミッションをクリアして食材名のカードを集め調理するときに実際の食材を渡す形で行っている。学校でもカレーの具材で同様の食材ゲットウォークラリーをする場合もある。皆で協力して行うよう取り組んでいる。

委員 「森の昆虫見つけ隊」はコロナになってから申込みが増えている。先日米沢市でのイベントでも500人位の参加者があった。これまで自粛していたことで発散したくて来てくれるのではないかと。

森の昆虫見つけ隊では標本づくりで昆虫の命を奪うこととなる。標本づくりを指導しているのは全国的にも多くないと思うが、そのことを通して自然の大切さを学んでほしいという想いである。この事業を続けてもらっていることは有難く感じており、今後も継続してもらいたい。

議長 主催事業でやっている内容などを積極的に発信してもらいたい。ツイッター、フェイスブック等も活用してもらえば。

(3) 令和5年度事業計画について

(4) 令和5年度施設利用予定について

事務局より、資料を用いて報告。

議長 外部講師との連携について教えてもらいたい。

事務局 ツリークライミングは昨年よりこちらから招致した。県民の森や蔵王の方でも活動されている実績がある。小さな天文学者の会はコロナ禍で活動を控えていたが、秋から連携を再開したい考えである。フライングディスク協会とは昨年度より連携している。自然の家を会場に東北地区大会開催やディスクゴルフの常設コースを設置しており、家族で楽しめるディスクゴルフに親しんでもらえる様協力いただいている。双葉をよくする会とは長年連携を継続している。今後も協力いただける団体があれば声掛けしていきたい考えである。

議長 プロジェクトアドベンチャー（PA）協会との連携や職員の研修は行っているのか。

事務局 以前は研修も受けていた。ノウハウについては職員間で継承している。

議長 自分が勤務したころは PA など研修が充実しており、そこでの学びをいかしていた。

委員 一般の受入れを増やしていることがうれしく思っている。いきいきサロンの団体での施設見学を受け入れることは可能か伺いたい。

事務局 団体としての受入れは可能である。山形市の SUKSK（スクスク）のエリアにもなっており積極的に利用いただきたい。

委員 自然がたくさんあってもコーディネーターがいないと楽しんでもらえない。ボランティアや団体と連携して幅広く活動しており素晴らしい。

委員 以前は植物と昆虫の事業を両方していた。植物好きな方も多く、連続テレビ小説の影響などで人気も出てきており植物の企画があっても良いのではないか。

議長 県立博物館や野草園との連携なども考えられると思う。検討していただければ。

(5) 施設整備の状況について

事務局より、資料を用いて説明。

議長 今後の主な整備予定は順次実施していくということか。

事務局 少年自然の家の新しいあり方の検討と合わせて今後の大規模修繕も検討していくことになる。

(6) 少年自然の家の新しいあり方の検討について

事務局より、資料を用いて説明。

議長 サウンディング調査の進行状況等はどうなっているのか。

教育部長 このあり方検討は山形市全体の課題として市長をトップとしたプロジェクトチーム（PT）で検討していくものとなっている。サウンディング調査は市企画調整課で実施する。参加申込み受付中だが、申込み状況は把握していない。今後民間からの意見を受けて、その結果を資料の通り秋頃に公表予定で、この協議会にも報告したいと考えている。

議長 市として目指していく姿が定まっているのか。

教育部長 市の考えはあるが、サウンディング調査の意見により変化していくことはある。

委員 教育的機能は子ども達のためそのまま残してほしい。また、これまで色々なところと連携してきたところも維持してもらいたい。

委員 子供達が体験活動をする上で、安全の確保という面で必要な施設である。キャンプ等の活動中、急に天候が悪化しても避難する場所が確保されており、安全に自然体験活動ができる施設として今後も小学校での利用を行っていききたい。

委員 施設の老朽化も進み修繕も必要となっているようだが、建替えも視野にあるのか。

教育部長　現時点ではゼロベースである。民間の開発の意向や外部有識者会議の意見をいただきながら提案によってはリノベーション等もありうる。様々な知見をいただきながら前提条件なくフラットにあり方を検討していくもので、建替えや修繕も含めて決まってはいない状況である。教育委員会としては教育機能を重視したい考えである。そのことも含め様々な観点から総合的に検討を行っていくものである。

議長　学校教育における自然体験学習の機能は十分な実績もあり、そこを大切にしながら新しいあり方を見いだしてもらいたい。

(7) その他

なし

10 閉会